



『覇気』 今年の部訓

2月9日、三戸浜では“合宿所開き”を行った。恒例の三戸・諏訪神社で安全祈願。神主さんも例年のことで工夫の跡が見え、祝詞がどんどん旨くなる。そのあと小島合宿所で新主将・鈴木君から部訓の発表があった。

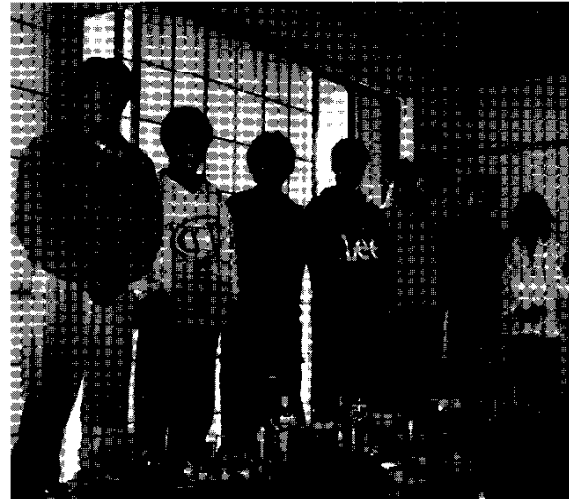
“覇気”「王者を目指す意気」である。今年の安全と活

躍に期待したい。

今年はOB総会に学生諸君全員に参加してもらう。強くするためにOB現役一体となって目標に向かって邁進しよう！



諏訪神社で安全を祈願



今年の上期諸君

理事会の組織改革を検討

現在の理事会でのOB会運営は20年前から行ってきました。しかし、当然のことながらOBの増加と年齢の広がりが気になるようになってまいりました。

そこで現執行部としては学生の活動を支援する現場がやりやすいように、運営方法・組織を改革するよう研究を重ねました。

- 1) 理事は各年度から1名、決めていただきます。
- 2) 毎日の運営は、15名前後の常任理事にやっています。卒業20年以内のOBに比重を重く編成するよう努力します。
- 3) 理事会の開催は、常任理事諸兄の協議で決めていただきます。インターネット、E-MAIL、FAXなど連絡協議がしやすくなっていますから活用し効果をあげられると思います。定例の会合は毎月でなくても良いのでないか。

永楽倶楽部も4月に移転します。新たに決まった場所を決める。

- 4) 事務局は、数人で役割分担します。
- 5) シニア部会を設け、クラブとしての親睦活動を中心に運営。常任理事会からの要請で役割を持つ。独自の活動は今後協議。
- 6) 早慶戦での現場集合を重視。

現役ヨット部を強化支援することが第一目的です。その一方ヨット界で存在感のあるクラブにするための改革案であります。皆様の積極的参加を期待いたします。

この案は総会にお諮りいたします。人事も併せて決定するため努力しております。

事務局

1996年決算書(案) (平成8年1月1日~12月31日)

収入の部；

前期繰越金			1,758,127
年会費			2,370,000
寄付金	合宿所関連	460,000	
	全日本支援	940,000	
	その他	35,000	1,435,000
会合費(総会)			299,500
雑収入			2,493
合計			5,865,120

支出の部；

ヨット部援助	2,000,000
合宿所柵補修費他	237,774
コープ補助	410,000
稲龍関係費(整備費など)	361,510
会合費(総会)	426,799
諸会費	146,000
慶弔交際費	363,349
OBレース/エントリー料	196,700
印刷通信費	282,886
名簿作成・改訂費	457,100
三戸浜海面協力金	240,000
手数料(メイセイサービス)	36,668
雑費	27,519
次期繰越金	678,815
合計	5,865,120

OBの皆様の多額のご寄付に感謝

平成8年(96年)の皆様からのご寄付・ご出費は、以下の通りです。

①合宿所の寄付・後半	460,000
②全日本支援とレスキュー	940,000
③その他	35,000
④レスキュー	3,620,000
⑤学生奉賀帳募金	630,000
⑥早慶戦記念品買い上げ	1,030,000
小計<①~⑥>	6,715,000
⑦当クラブ(OB会)会費	2,370,000
OB拠出金総計	9,085,000

この内、当クラブ理事会口座関係は、①②③⑦であります。

④は、募金口座担当、川島OBの報告による。

⑤は、学生からの報告による。

⑥も、〃、これは買い上げ価格。

期間は平成8年1月~12月末。

当クラブ会計報告ならびに監査報告は、総会にて行われます。

皆様のご理解ご協力を厚く感謝致します。……

平成8年、ご寄付・ご協賛者名簿とその集計表

	振込み	レスキュー	奉賀帳	合計	人数
卒業40年超	40万円	0万円	13万円	53万円	16人
〃 30 〃	21	25	15	61	15
〃 20 〃	7.5	0	12	19.5	13
〃 10 〃	14	4	11	29	15
〃 10 以下	11	333	12	356	42
合計	93.5	362	63	518.5	101人

<卒業40年超>

卒業年	氏名	振込み	レスキュー	奉賀帳	合計
15	長医	2			2
16	堀江	2			2
21	野木	2			2
22	清水	10			10
26	漆原	2			2
26	渡辺	4			4
28	石井	2		3	5
29	安藤	3		3	6
〃	金沢	2			2
〃	石川	3			3
〃	米田秀	2			2
〃	米田晴	2		2	4
30	是枝			2	2
〃	松本	2			2
〃	浜田			2	2
〃	遊佐	2		1	3
	小計(40)			(13)卒業40年超	16人
					小計53万円

<卒業30年超>

卒業年	氏名	振込み	レスキュー	奉賀帳	合計
31	杉山	2	5	1	8
〃	舟岡	6		2	8
〃	日色			1	1
32	武村			1	1
〃	中田	5			5
33	加藤		10	2	12
36	土肥		5		5
37	伊藤(秀)	2			2
〃	村瀬			3	3
38	木村		5	1	6
〃	倉谷			1	1
〃	山崎	2			2
40	松島	2		1	3
〃	小島			2	2
〃	大	2			2
小計(21)			(25)	(15)	卒業30年超
					15人
					小計61万円

<卒業20年超>

卒業年	氏名	振込み	レスキュー	奉賀帳	合計
41	森			1	1
〃	滝			2	2
〃	頼			1	1
42	石合	2			2
〃	金刺	1.5			1.5
45	大矢木	2			2
〃	武藤	2			2
〃	菊池			1	1
〃	福島			2	2
47	早川			1	1
〃	山田			1	1
49	栗林			1	1
50	藤井			2	2
小計(7.5)				(12)	卒業20年超
					13人
					小計19.5万円

<卒業10年超>

卒業年	氏名	振込み	レスキュー	奉賀帳	合計
52	角田	2			2
〃	川瀬			1	1
〃	岩瀬			2	2
53	斎田			1	1
〃	大原			1	1
〃	渡辺			2	2
54	北川	2			2
〃	小川	2		1	3
56	風間	2		2	4
57	小池		3		3
58	鎌田		1		1

59	松本	2			2
〃	市井	2			2
60	梅原	2			2
〃	瀬川			1	1
小計(14)		(4)		(11)	卒業20年超
					15人
					小計29万円

<卒業10年以下>

卒業年	氏名	振込み	レスキュー	奉賀帳	合計
61	野本			1	1
62	宮沢	2			2
63	鈴木	2		2	4
H1	川原		3	1	4
〃	坂部		3	1	4
〃	牧			1	1
〃	長谷川			1	1
H2	清水		10	1	11
〃	矢口	1		2	3
〃	小川	2		1	3
H3	諏訪	2	2		4
〃	野原		3		3
〃	藤原		2	1	3
〃	市川		2		2
H4	児玉		11		11
〃	川島		11		11
〃	石田	2	11		13
〃	大辻		11		11
〃	羽田		11		11
〃	原		11		11
〃	福沢		11		11
〃	星野		11		11
〃	三村		11		11
〃	柳川		11		11
H5	石井		11		11
〃	阿部		11		11
〃	今井		11		11
〃	星野		11		11
〃	高野瀬		11		11
〃	束野		11		11
H6	畠山		11		11
〃	永田		11		11
〃	岸井		11		11
H7	原田		11		11
〃	古沢		11		11
〃	月岡		11		11
〃	青木		11		11
〃	萩原		11		11
〃	古田		11		11
〃	梶木		11		11
〃	勝木		11		11
〃	伊藤		11		11
小計(11)		(333)		(12)	卒業10年以下
					42人
					小計356万円

《早稲田ヨット部1996》関東では健闘した!!

……しかし、全日本では及ばず……

鈴木光宏監督以下コーチ陣の熱意ある指導で、次第に力をつけていった。

部員の数は、4年/5人、3年/7人、2年/3人、1年/5人計20人。女子マネージャー7人である。

	<470><スナイプ><総合>		
春インカレ(5月)	6位	4位	5位
早慶戦(6月)	勝ち	勝ち	圧勝
早同戦	負け	負け	負け
秋6大学			優勝
秋インカレ(10月)	2位	3位	2位/48校
全日本(11月)	8位	11位	10位/22校

関東での順位は、日大・早稲田・慶応・関東学院・中央・法政、これを6強とって良い状況。これに青山学院・成城・東大・明治などが続く。しかし、正直なところ、1位と2位の差は大きい。

全日本では、琵琶湖勢(同志社・立命館・京産大)と、福岡大学が4強で関東は日大が若干の大奮闘で、その一角に食い込むのがやっとという状況だった。琵琶湖勢は若洲(東京木場沖)でのアメリカ対抗レースでも勝利した。(早稲田出場せず)アメリカは東部の強風に強い奴等が来て、琵琶湖勢にカモられた。

早稲田のレベルを上げるにはどうしたらよいか。中長期的に対策を取る必要がある。なお、97年の全日本は九州・小戸です。九州のOBの皆さんにいろいろな面からのご指導ご支援をお願いします。

全日本インカレの詳細

(11月2～4日・琵琶湖雄琴ロータリーピア)

関東各校は散々な目にあった。第1レース関東勢の多くの有力艇がリコールでDSQ、早稲田は両クラス全部失格から始まった。関東でのインカレであれば、ゼネラル・リコールになるという状況下で学生諸君ががっくり来たのは気の毒だった。この史上まれにみる最悪の状況は、早稲田のみならず関東での加盟校はもちろん関東でレース運営に当たっていただいている学連関係者にも警告を発したものであろう。

関東では安全かつ公平を旨に運営されているように見られる。しかしあまりに過保護に陥っているのではない。強風になると直ぐレースが中止される。レース水面に行くまでに沈をする連中と同一レベルでやるから、強風につよいチームは歯がゆい思いをする。風の変化の落ち着くのを待ち過ぎてとどろんスタート時間が遅れる。ゼネラル・リコールを頻発するから、皆でわたれば怖く

なくなっていた。これを琵琶湖でガツンとやられた。関東では、2部制にするとか、マリナー別予選をするとか意見は過去にもあったらしいが、実現していない。しかし今回の悔しい経験を契機に何かを改善すべきであろう。

しかしこの苦境のなかに日大は立派であった。470最終戦、1年生に切り替えてトップ集団に3艇でなだれこんできたのには感心させられた。早稲田の反省すべきは当然である。しかし気持ちも晴れないであろう。だから直接その渉になかった筆者がかわりにぼやいている。世の中、怖い奴が幾らでもいることを学んだわけだ。

97年、早稲田は学連委員長だそう。運営というものを、考えて学んでほしい。

総合; 1同志社 2福岡 3京産 4立命 5日大 6関東学院
470; 1同志社 2立命 3日大 4京産 5福岡 6関東
スナイプ; 1福岡 2京産 3同志社 4立命 5日大 6関東
(早稲田の順位は別掲)

琵琶湖・全日本へのOB以下の通り。

全日本学連会長・小沢さんは毎日湖上であった。鈴木監督、清水、矢口、平藤、諏訪、石井、高野瀬、島山、吉峰らが東西から集まった。長老組は石井、安藤、加藤、米田、もっぱら他大学と交歓。

96国体は早稲田勢大活躍

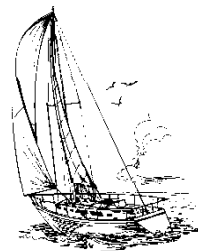
8月の夏の国体では、早稲田が大活躍しました。OB・1年生と現役諸君です。

(470)

- ◎宮城県代表は96年春卒業のキャプテン石橋君(トートー仙台)が2位。東北学院OBと組んだ。
- ◎香川県代表は同じく96年OBの吉峰君(高松市役所)が、福岡大OBと組んで、4位。
- ◎埼玉県代表現役の鈴木・原田組が7位入賞。

(スナイプ)

- ◎埼玉県代表現役の尾藤・島田組は19位でした。



『稲 龍』 廃 艇

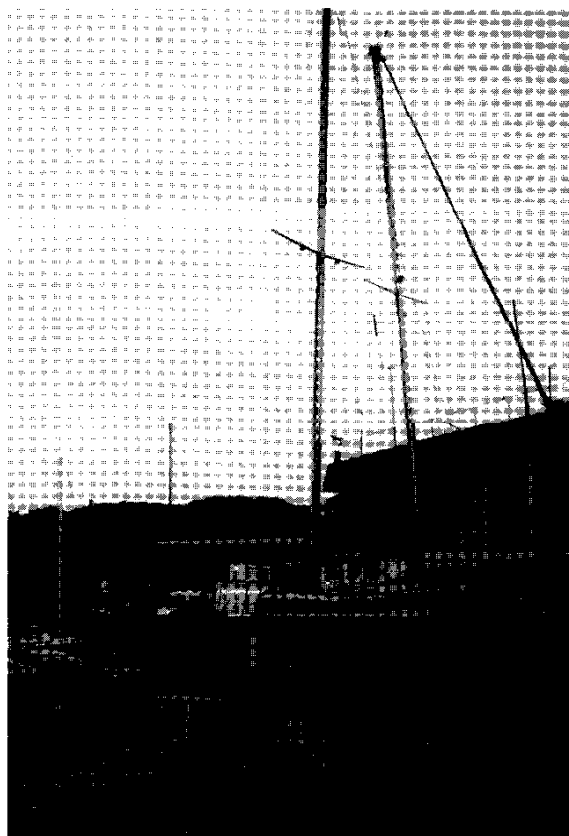
稲龍はここ3年、痛みが激しく使用できない状況でした。その修理には相当金額を要すること(1,000万円以上超)がはっきりしたため、大学と協議した結果「廃艇」と決定されました。大学体育局は新しい艇の購入に理解をしめしており平成10年度の予算申請で細部をつめてゆくことになります。OBの募金が必要なことは前提条件です。新執行部で検討する課題です。

フネの廃艇の場合、今は後始末にもカネのかかることご承知のとおりです。といっても永年早稲田のシンボルとして存在し愛着ある「稲龍」を解体・焼却するにしのびなく、そこで「下田ボートサービス・伊藤OB」に全処理を任せることに致しました。

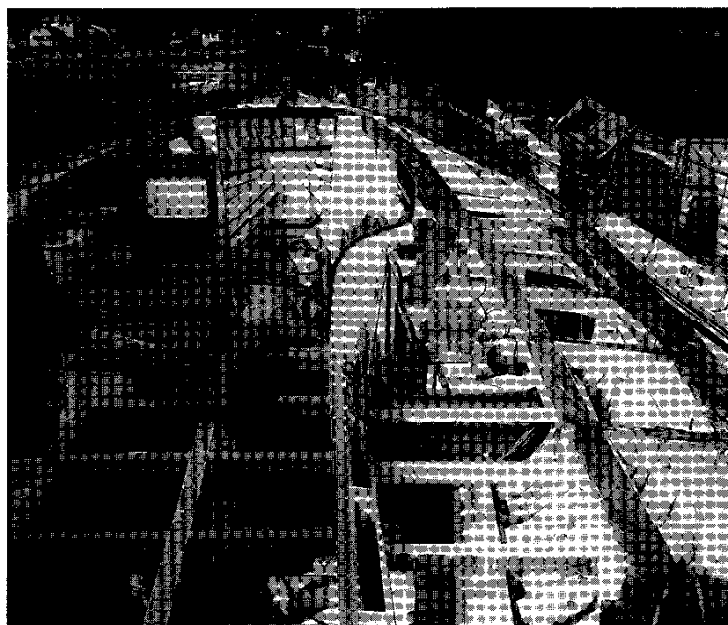
96年6月15日、下田へ回航することになりました。稲龍はアツキの中央から後部の痛みがひどく、乗員が立ち回れません。そこで機走。OB艇「げっこう」と「だぼはぜスーパー6」が伴走しました。相模湾の中ほどから風波強く(SWS17m/scc)なり、熱川・稲取沖で難航したが無事に下田に入港した。朝5時、油壺を出帆した稲龍と“げっこう”を東京湾からの“だぼはぜ”が追うという形。下田入港は夕方4時すぎ、稲龍・月光・だぼはぜ、の順番に30分以内に入るという理想的なフィニッシュでした。

- 稲龍； 石田(S37)石川(S42)藤田(S46)杉井(S48)
- げっこう；米田(S29)千葉(S30)中田(S32)出(S38)
- 斎藤(S40)金刺(S42)
- だぼはぜ；土肥(S36)川原(H1)米(H3)人浜(H3)ほか

稲龍は昭和39年11月建造、12月進水、船歴32年。この間、昭和40年代の相模湾での各レースに好成績を治めた。昭和48年、学生OB合同で日本一周を行い、各地の稲門



会との交流をして注目を浴びた。以後は各地方でのインカレに応援航海を行い、早稲田に稲龍ありと全国ヨットマンに知られていた。数少ない木造ヨットである。



4 大学OB戦 ワセダ／大勝利！

新装なった新西宮ヨットハーバーは東洋一だそうです。大地震の影響で倍の費用が掛かったそうですが、素晴らしい環境にスマートなクラブハウス、最新施設を整えています。

美しい六甲の山並みに向かってアプローチも広く、阪神間のヨットマンの心意気を示しているようです。どのバースも美しいクルーザーがずらり。

快晴。S～SW、3～5mという敬老の日にあふさわしい絶好のコンディション。前夜祭の酔いも吹き払う晩夏の陽射しです。

ドラゴン。元オリンピック選手がどこの艇にもいるのでスタート前から虚々実々の駆け引き。レース内容もレベルの高いものでした。

スナイプは各チームとも老壮若入り乱れた編成。それぞれ3レース。

観戦艇は各チーム別に準備された。当番校関学さんの配慮、実に行き届いていた。

わが早稲田は14名が参加。

林忠治 (S21) 石井、村瀬 (S28) 安藤、米田 (S29) 松本 (S30) 吉田 (S36) 山内 (S44) 北島 (S45) 宮本 (S46) 宮本、浜田 (S48) 諏訪 (H3) 吉峰 (H8)

レース結果と出場クルーは以下の通り。

<ドラゴン級> 1回戦 D、W、KG、K 松本、山内、吉峰
2回戦 W、K、D、KG 山内、浜田、吉峰
3回戦 W、D、K、KG 〃 〃 〃

<スナイプ級> 1回戦 W、K、KG、D 北島、吉田
2回戦 D、W、K、KG 宮本、諏訪
3回戦 W、D、K、

KG 諏訪、宮本

両クラス優勝、勿論総合優勝。大きなカップと小さいカップを獲得。西宮市内で直ちに祝勝会、カップでビールを飲みました。バンザイ！

'97年は早稲田が当番校。蒲郡でこのカップを守りましょう。9月中旬。

レース後の感想

林忠治；寿命が10年伸びた。来年も勝とうやないか！

……関西で催しがあるときは、必ず連絡せよ。

……同志社戦があるとき、知らなくて恥じかいたぞ。

村瀬； 来年は蒲郡。名古屋の連中皆で参加しよう。
石井； 今日は全部1位も取れた。……と（2位の人たちを責める）

山内； 来年は蒲郡。万全の運営をしましょう。クルーザー2隻つつ。吉峰新OBがドラゴンで大きなフネの楽しみを知ってくれて本当に良かった。

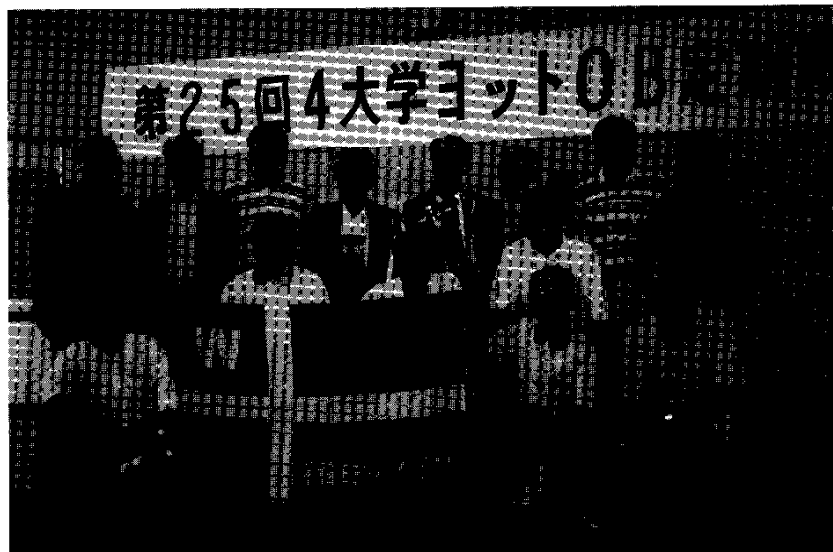
北島； 昭和44年のインカレ優勝の西宮で25年ぶりのレースだった。

吉田； 北島にアレコレ注文つけられて参った。

吉峰； ドラゴンに乗れてとても勉強になった。感激。

……以下省略。関西のOB皆さんに出場してもらえて大成功。これからもOB戦は必ず勝ちに行く。たくさんの人に乗ってもらうようにしましょう。

……なおこのレースの観戦艇にはAクラス・デインギューも1隻出ました。赤いセール／ニス塗りの新艇。交替でのりました。



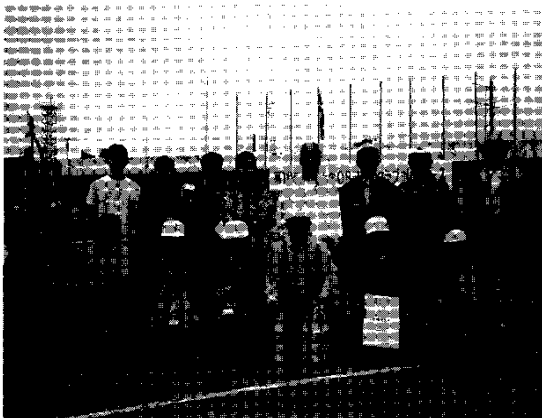
10大学OB戦

みんな走った！勝った！！

10大学OBレース……というのが、参加は15チームが増えて、OBインカレという様相。集まるのに意義のあるチームから、勝ちにくるチームまで様々です。スナイプ・シニアの（松本・浜田）が優勝、スナイプ（中島・村山）快走、シーホッパー（角）アワヤの活躍、そして立教を僅かにかわして、総合優勝。この大会を最初から中心になって努力している加藤久直先輩の嬉しそうな顔、写真で見てください。

この日、6月8日は全国的に深く厚い雲で大雨だったが、諏訪湖上空だけがぽっかりと晴れて早稲田に銘酒3升をもたらした。97年もここ諏訪湖／6月。また勝ちにいくてください。

加藤久直、石井章夫、安藤一夫、位田幸治、米田晴二、千葉栄作、松本富士也、遊佐喜弘、浜田裕、小川寛樹、梅原浩一郎、角征一郎、中島恵、村山崇



関東ヨットメンズ・クラブ総会

平成8年11月12日、恵比寿のビヤホーフ麦酒館。

＜早稲田出席者名＞

永元作一、堀江喜三、田窪公子、加藤久直、湯沢一清、伊井邦彦、秋山昭、石井章夫、佐伯浩一、河村雄三郎、石川武男、安藤一男、米田晴二、梶杖隆克、岩本誠、松本富士也、松本基子、遊佐喜弘、浜田裕、加藤文生、………20名

この会は55才以上が対象だそうで、関東ヨット界のお歴々が揃って出席されるようになっていたので、早稲田OBも今後も出席する方が多い。

むしろ、55才以上のわがクラブのシニアOBの集まりに利用することにしたほうが良いようにも思う。



稲門体育会 (5/29)

小沢信三郎会長、永元作一、久留島三記男、伊井邦彦代表幹事、石井章夫、安藤一夫、浜田裕、小川寛樹理事長、各OB。近江幸治部長も。小沢会長は益々お元気。この会でも最長老3傑の一人。

ゴルフ部会もベストグロ 甲府国際CC

出基人、小島朋好、千葉栄作でベストグロス。松本、米田は独自の戦い。

そして、この日、八景島では

A級ディンギーのコーキング

加藤文生、武藤忠、福島洋二、大原義昭、清水宏和、石井慎二

A級ディンギー全日本、7月・八景島

二日続きの豪雨・強風のため、大勢集まったのに中止。夕刻の雨の中でのパーティーだけ。

（参加）石井、河村、佐伯、米田、千葉、浜田、杉山、舟岡、中田、加藤、渡辺、木村、大、滝、北島、武藤、福島、三塚、藤井、岩崎、野口、鈴木
97年は北海道・函館。



下田は老艇の墓場ではない!!

下田ボートサービス・伊藤秀利 (S37)

2年前のOB会で諸先輩から稲龍修理について何とかしろ……と詰め寄せられ返事に窮したことが思い出されます。しかしその後あれこれ経過があり、廃艇が決定されました。今木造船ヨットに大金かけて修理するのは、まったく趣味の世界だと思われれます。古い痛んだ船の処理（解体・焼却）は商売にすらなる世界です。えらいことになりました。船を回航した諸君は次の日サッサと帰ってしまいました。

思えば私の現役時代、“潮気とは何ぞや？”を教えてくれた“早風”と、その事故の後、関係者の反省と祈りを込めてできたフネです。

学生時代、“早風”を、合宿所の庭に上架して焼き剥きをしたり整備したりしたことが次々に思い出されます。目の前に痛んだ稲龍を見ているうちに“廃船解体焼却は余りにも忍びない。そうだ、下田港はフネの墓場ではない……”と思った途端、もう再生の手順を考え始めました。あまりあれこれ考えないうちに、船大工やエンジン工場の方々に声を掛けてしまいました。始めてみたらエンドレスの仕事が続いてしまいます。カネは幾ら掛かるんだ……震えが来ました。しかし、最愛の大蔵大臣・山の神に理解してもらったら、もう腹が決まりました。今、デッキも剥がされ、キャビンの中がさらされています。歴代学生の汗と脂で凄いものです。木部、電気配線、器具、トイレ、エンジン……すべてがぐたぐたびれて……ああ、ロマンなんてもんじゃない。

乗りかかったフネからもう降りられない。そんな状況です。

あれ、どうした……といわれればこれだけいうのがやっとです。

ヨットの現場から発信

遊佐喜弘 (昭30)

長崎・神奈川の県・社会教育の現場にいて地域・職場の若い人たちと接触の多い人生でしたが、数年前に定年を迎え昨年からは完全に自由時間を持つことになりました。社会教育というのは県の体育館初め諸設備を中心に行っていましたから土日曜日が最も忙しく、ヨットの現場に週末に参加するのはなかなか難しいことでした。そこでやっと念願のヨット人生の再開です。

＜逗子マリーナから発信＞

16万平方メートルの敷地にリゾート・マンションが並び椰子の木が揺れるヨットハーバー。鎌倉または逗子からバスかタクシーでもそんなに遠くない場所です。ここには立派なクルーザーも沢山ありますが私はこのマリクラブのデザインに乗っています。シカーラ、レーザーその他数種類あります。正月も開いており洋上から初日の出を拝みました。

このクラブにはイギリス、ドイツの人もいて外国語講習を兼ねたセーリングをしたりします。秋には葉山マリーナ、シーボニアと3マリーナ対抗の親善レースも楽しく行われます。江ノ島が国体準備の人改造中で、しかも満杯の状況ですが、ここは手軽に楽しめます。月曜、木曜は天候を見ながらここに通っております。いろいろな友人をご案内しています。昔ヨットをやったが学生時代以来遠ざかっていた人も、あまりに手軽に乗れるので喜んでくれます。是非一度お出掛けあれ。



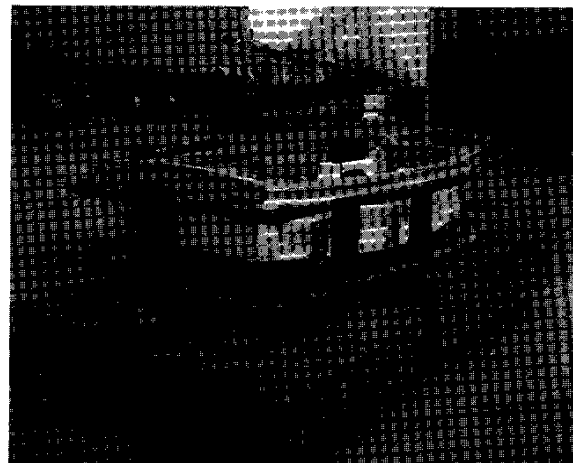
り、サイクリングなど)があります。初心者から中級者までを対象に、いろいろなコースが組まれています。土曜コース日曜日コース、ワークアウェイの初心者コースなど。指導は東京都ヨット連盟が当たります。スタッフは30人くらい、顔見知りの顔も多いと思います。近くの学生さんも手伝います。都心に近いのとスタッフが多いことさらに艇も良いので好評、受講希望者が多いのです。ここで7年前から指導されている、堀江さん、田窪さんから誘われて週末を手伝いに行きます。

お子さんにヨットを教えたい人、自分も協力しようという方。是非一度見においでください。ジュニアスクールはOPを使います。陸上のシュミレーションそれから、海上に進みます。子供達の進歩の早いのに驚くくらいです。ここには420が13隻、スナイブ20隻、レーザー2隻。OP/25隻、救助艇3隻があり、マストを立てたま



＜若洲ヨット訓練所の紹介＞

東京都の施設です。京葉線「新木場駅」をはさんで北に「夢の島マリーナ」南に若洲公園(ゴルフコース、釣



これで練習するから安全で覚え安い、陸上シュミレーション器材

ま入れる艇庫が準備されています。

『日米学生親善ヨットレース』が昨年11月この施設を利用して行われました。レース海面は荒川河口です。470、420、スナイプ。日本13校、アメリカ18校、選手100名。

小沢全日本学生ヨット連盟会長が「学生生活の良き思い出と友情をもちかえられよ」と挨拶されました。今年87才、やがて米寿を迎えられる小沢さんが、孫より若い学生たちのヨット・レースを海上に出て3日間見守られるには敬服の他ありません。見習わなくてはいけません。それにしてもアメリカの女子学生たちが伸び伸びと艇を操作していた姿は印象的でした。

江の島ジュニアで忙しい

松本富士也(昭30)

二年前、仕事とヨットの両方を四十年間思う存分やらせてくれた巴工業を無事リタイヤしました。

更に二年間、第二の人生を構築するための余裕を舟岡社長(昭和31年、早稲田ヨット部卒)からもらいながら、その準備に入る前に、故小沢吉太郎先生が創立され三十年の歴史のある江の島ジュニアヨットクラブの面例会を見て欲しいとの話があり、江の島には随分色々なご縁もあることだと、軽い気持ちで無給ボランティアの立場でお引き受けしました。ところがこれにドブプリ漬かってしまい「日曜だけのお手伝いの筈だったのに」と言う女房を再びヨットウイドウにしてしまった日々を送っています。

江の島ジュニアは、小学2～3年生から高校3年まで、約120人の子供達が毎日曜練習していますが、こちらは海の上に出るよりも、組織再構築や管理業務やらで陸の上の仕事に追まわられているのが現実です。

振り返って見ますと、私の人生は早稲田ヨット部に入ったのを皮切りに現在に至るまでヨットと共にあり、多くの先輩、友人、後輩に恵まれ、有難い活動の場を色々与えられて夢中で過ごして来ることが出来ました。感謝感謝の思いでいっぱいです。特に世界のスナイプの組織

(SCIRA)で日本で始めてコモドアになった事と、オリンピックの選手と監督の両方をした事は、素晴らしい経験でした。お陰で北はフィンランドから南はアルゼンチンまでスナイプ関係で旅することが出来、息子をクルーにして親子でマスターズワールドに二度も出場しました。一方オリンピックでは、一緒に強化を担当してきた松山コーチが、遂にアトランタで日の丸を揚げてくれて本当に嬉しい限りです。それにしても日本の女子は強い。江の島でも真面目で頑張るのは女の子、早稲田ももっと女子に活躍の場を与えたら良いのと思います。

人学二年の時、父が急逝しヨットを続けるのは無理と思ったとき、先輩や同僚が一生懸命支えてくれたお陰でヨット部を辞めずにすみ、現在の自分が有るのだと思うと本当に有難い事だったと思います。この素晴らしい友人達とは四十年たったいまでも、“おいお前”てな調子で家族ぐるみで何かというときすぐ集まり、西日本のクルージ



松本OBとカナダ・ナショナル セクレタリーID CROOK氏

ングやヨーロッパの運河の旅やらを夢んでいます。どうやら私の第二の人生もヨットを中心とした生活になりそうです。

早稲田の現役の皆さんも、江の島の子供達も、生涯、海とセーリングの大好きな自然を愛する心と、勝つ為に全力を尽くすチャレンジ精神を養い、一生の友達をつくることの出来る青春時代を有意義に過ごして欲しいと願っています。

アメリカズ・カップ物語

武村洋一(昭32)

編集部から…… 皆さんご承知の通り、武村氏はニッポンチャレンジの元・現場マネージャーとしてまた現在事務局スタッフとして、様々のことを見、かつ体験されています。そこでのあれこれを紹介していただきます。いまニュージーランドでのアメリカズカップ2000に向けて募金を始め様々な準備に掛かっておられます。これから起こることも含めて「航跡」紙上で語ってもらいます……

1851年、第1回万国博覧会を記念して行われたイギリ

ス・ワイト島一周レースに、当時の新興国アメリカから唯一隻参加したニューヨークヨットクラブのアメリカ号が、なみいるイギリス艇を退け、獲得した銀の水差しが後に America's Cup と呼ばれるようになった。

爾来146年間、ア杯のありかを検証するのも面白い。1857年アメリカ号のオーナーたちがア杯をニューヨークヨットクラブに寄贈し、世界のヨットクラブにア杯獲得のチャンスを開いた時から、1983年オーストラリアのアラン・ポンドの手にわたるまで、実に126年間、カップはNYYCのカップルームを離れることはなかった。NYYC

は世界の挑戦をことごとく退け続けてきたのである。1983年、オーストラリアⅡに敗れて、カップを失った最初のアメリカ人、という汚名を着せられたデニス・コナーは、オーストラリアのフリーマントルで行われた1987年大会に故郷サンディエゴヨットクラブから挑戦し、すぐさまカップを取り戻したが、本家を自認するニューヨークのエスタブリッシュメントたちは納得しなかった。サンディエゴは西海岸の地方都市ではないか。本来ア杯はNYYCにあるべきなのだ。これが彼らの本心であった。

1995年、ニュージーランドのブラックマジック号が驚異的なスピードで他を押し、カップをニュージーランドに持ち去ったとき、デニスはカップを二度失ったアメリカ人になったのである。

ニューヨークに都合132年、オーストラリアに4年、サンディエゴに8年。そしてカップはいま、ロイヤル・ニュージーランド・ヨットスコードロンのカップルームにその輝きを放っている。

実は、NYYCはこのチャンスを待っていたと言えなくもない。次回2000年の大会に向けて、いち早く挑戦を表明したのはNYYCであった。名手エド・ベアードを擁し、本家の名誉をかけての挑戦である。かつて海洋国イギリスが、その威信をかけてカップを奪還するべく挑戦を続けたのに通じるものがある。

ところで、ミスターアメリカズカップと呼ばれるデニス・コナーは、一方であまり人気が無いのはどうしたことなのだろうか。サンディエゴのホテルのフロント係や、タクシーの運転手に、今日のレースはデニスの負け、とホットニュースを伝えると、ニヤッと嬉しがっていた。

さかのぼって、長いアメリカズカップの歴史を彩った人といえば、やはり、サー・トーマス・リプトンを挙げなければならない。イギリスの貧しい商人から身を起し、名門ロイヤル・ヨットスコードロンのメンバーとなり、サーの称号を得るまでに至らしめたのは、実は、産業革命であった。ジェームス・ワットが蒸気機関を発明し、物の生産が手作りの時代から大量生産の時代になり、人々は少しづつ余暇を楽しむ暮らしが出来るようになった。お茶の消費量が増え、リプトンが遠く東洋から運んできた紅茶は飛ぶように売れたのである。

富と名誉を手中にしたリプトンが、もうひとつ欲しかったのは、アメリカズカップだった。帆船による交易で財をなしたリプトンにとって、海こそ情熱とロマンをかける場であった。彼にとって、アメリカズカップは、どれだけお金を使ってもそれに値する存在だったのである。

1899年から1930年まで、名艇シャムロックで5回の挑戦を果たしたリプトンだったが、カップはNYYCのカップルームにボルト締めされたままであった。

当時のアメリカズカップの取り決めでは、挑戦艇は、レースが行われる場所まで、白走してこなければならなかった。大西洋を渡って来た外洋艇シャムロックと、スピードだけを追求した地元の快速艇では、勝敗は明らかだった。

5回の挑戦に破れ、ニューヨークを去って行く年老いたリプトンに、アメリカの人々はその限らないチャレンジ精神に拍手し、1ドル募金により、16,000ドルのティファニー製カップを敬慕の念とともに贈ったのである。リ

プトンはこれを受け、「しかし、私の欲しかったのは、これではないのだよ」とつぶやいたという。

それにひきかえ、1970年から連続挑戦したフランスのポールベン王マルセル・ビック男爵は、挑戦艇までもに至らず、クルーの起用が不明朗であったりして、あまり評判はよくないのは気の毒である。

1983年、史上はじめてカップをアメリカから奪取したのは、オーストラリアの実業家アラン・ボンドであった。不動産を中心に手広く事業を展開していたボンドも、その成り立ちから、一流の財界人には列せられなかった。ボンドは、アメリカズカップに挑戦することで地位を得たかった。一度はその夢を実現したかに見えたアラン・ボンド。いまは事業に失敗したと噂されている。

1974年・1977年の2回。カレイジャスのスキッパーとしてカップを防衛したのはアメリカンドリームを実現したマスメディアの風雲児テッド・ターナーである。1975年、オーストラリアのサザンクロス・シリーズのスタートフィンで、私が舵を持つサンバード5世のすぐ風上を帆走していたのがテッド・ターナーだった。このシリーズに総合優勝した彼は、独特の口ひげで、「俺はジョージアの百姓だ」とうそぶきながら優勝カップを高々とかざしていたのが印象に残っている。

さまざまな人たちが、それぞれの思いで、挑戦することに、あるいは防衛することに、途方もないエネルギーを費やすアメリカズカップ。

次回大会の展望、ニッポンの3度目の挑戦。レースの仕組みなど、話題は尽きない。次号でまた。

編集後記

＊＊正月5日、TV12チャンネルでキッシンジャー博士の「世界を予測する」を見ていたら、在アメリカの日系企業代表者が質問する場面があった。昭40年OB小坂順孝氏が出てきたのにびっくりした。アメリカ・石川島播磨の社長であった。この年代の皆さんが一番忙しいのだなと分かった。

忙しい人は仕事に精一杯打ち込んでいる。そして時間ができたら、後輩の面倒を見てまた自身のヨットクラブライフに情熱を燃やす。普通の同窓会と違って運動部の付き合いは縦の絆がある。今年卒業するOBとも同じテーマで話が出る。OBは基本的に並列対等であり、その上で、過去の伝統を尊敬し、現代の努力に敬意を表する……ということによってOB会は強く結ばれると思う。

＊＊「クラブの組織改革」を提案させてもらった。基本的に卒業20年以内のOB諸兄にクラブをリードしてもらいたい思いがある。シニア部会にも仕事がある。何をするか相談を始めたい。新進党から太陽党が出来るようなことをしてはならない。早稲田ヨットクラブとして強く団結し、良いOB会にするのが狙いです。10年以内のOBにしてなお、今の学生の考え方は……という。若すぎるくらいでよい。よい勉強の場でもあります。

どの年代の方もOB会活動に積極的に参加してください。

＊＊新しい人事を編成する段階で本紙にも新しい流れが生まれる。